

日本産業衛生学会東海地方会

地方会ニュース

発行所 東海地方会ニュース編集事務局
 〒 480-1195
 愛知県愛知郡長久手町大字岩作字雁又 21
 愛知医科大学医学部衛生学講座
 電話 (0561) 62 - 3311
 FAX (0561) 63 - 8552
 発行責任者 小林 章雄

(題字 皿井 進筆)



(財) 岐阜県産業保健センターの全景 (左側は岐工連本部)



食器の口口成形 (半自動): 多治見、土岐、瑞浪市一帯が産地



耐火レンガのプレス成型 (タイルも同様だが発じんは多い)



原料 (珪砂) の袋詰め作業



石材加工の石割り作業 (中津川市北部)



焼成工程前の台車のクッションに石綿を使用

■■■ 心ひそかな “社会医学マインド” のうえに ■■■

加藤 保夫 (財) 岐阜県産業保健センター



夏が来ると思い出す光景がある。

大学2年 (昭和 43 年) と3年の夏休み、私は“社会医学研究会”という部に属し、長野県の佐久病院の近くの山村 (無医村) の公民館に仲間と寝泊

まりして、昼間は農夫症の問診、血圧測定、検便 (回虫) 検査などを実施し、最終日の夜には裸電球の下、報告会 (ビー紙にグラフを書いたりして) を開いたように記憶している。この部には学生運動家的な人も、看護学校の女学生もいたが、共通のコンセプトは予防医学 (治療医学に対し、病気にならないよう或いは病気の早期発見をめざす) の実践 (フィールド活動) を考える会とも言え、なぜそうした雰囲気になられたのか実のところ自分でもよく分からない。大学を卒業し、社会医学系の公衆衛生学教室 (島正吾教授) へ入った昭和 48 年の秋 (25 歳)、縁あって“中小零細窯業企業集団のじん肺の中央管理”を目的に設立された、当時の岐阜県窯業衛生センターへアルバイト勤務し、昭和 62 年 (39 歳) より常勤医としてお世話になっている。作業環境の改善と、窯業界の低迷も重なり、じん肺も減少 (昭和 55 年の約 2500 人: 有所

見率約 30% から平成 20 年の約 300 人: 約 6% へ) し、所期の目的に対し、センター (私自身) もその役割を終え、ひとつの時代が終わりを告げようとしている。恐らく世界的にも希な約 3500 人の個人別じん肺写真ファイルの集積も遠くない時期に順に破棄されよう。

職業病 (じん肺、溶剤中毒など) や生活習慣病の健康診断をいくらやっても、それだけでは病気の予防はできない。健診後のケア (保健指導、環境改善、紹介状発行など) にどれだけ力を入れているかが、健診機関が健康管理機関と言えるかどうかのパロメーターといえよう。私自身、胸を張って健康管理機関といえる状況を理想とするも、現状は正確なデータの提供という最低限の精度管理 (特に年間、肺が約 12 万人、胃が約 2.5 万人に及ぶがん検診のダブル読影など) を確保するのに精一杯の毎日の時間に追われ、その状況から抜け出せそうにもない。しかしそうした“志”だけは心ひそかに持ち続けたいと思っている。なぜならこうした“社会医学マインド”が私自身のライフワークの基盤とも言え、健診を病気の予防に繋げなければ、“健診不要論”にいつか屈する可能性も高い。

第 24 回産業保健スタッフのための研修会開催報告

平成 22 年 3 月 6 日、名城大学薬学部のライフサイエンスホールで第 24 回産業保健スタッフのための研修会が開かれた。「産業保健に役立つ疫学入門」と題して尾島俊之教授（浜松医大）は統計学とはデータを捨てることという基本的なとらえ方が示され、統計手法から疫学的な方法によって得られたデータからものをいう際に必要な手法が概説された。初心者が陥りやすい対照群の選び方やバイアスによる解釈の難しさなども示された。事業所で行う様々な調査は本来目的があって行われるものであるが、その見方はデータを取り扱う人によって様々なものがありうることも指摘された。統計学・疫学は産業保健の基本的な研究方法であり、学術団体である本地方会にとっては特に重要な課題といえるが、講演は多くの参加者に対して論点の整理とともに考え方を示すものであり、今後会員が調査研究に取り組む上で、文字通り役立つものとなった。

真田樹義准教授（立命館大学）は「特定保健指導の効果的な実践～運動・生活活動支援のポイント」と題して、産業保健でもしばしば行われる特定保健指導としての運動の支援を行う際に、心肺持久力、筋力・筋持久力、柔軟性を健康関連体力として、それぞれ意義、根拠になる研究成果、アドバイスを行う際の注意事項を示して、実効性のある支援に役立てることを説いた。特に自らの減量の経験を示しながらのデータ呈示と最近に自身の研究グループから発表された身体と動脈の柔軟性の関連を示す研究結果には説得力があった。特定保健指導全般に言えることだが、学術的な根拠に基づいた運動処方、保健指導が強調されたことは、地方会の学術活動にも関わるものであり、意義は大きかった。

続いて歯科分野からの指定発言として加藤一夫准教授（愛知学院大）が産業歯科保健の立場から、産業歯科保健分野の大きな課題に挙げられる歯周病と糖尿病

との関連、また全身と口腔の健康の関連についての研究成果が示され、保健指導は歯の健康問題も踏まえたものとすべきことが示された。

今年度はメンタルヘルス分野から 2 名の講師が招かれた。この 12 年間、3 万人を超える自殺者が社会問題になっているが、夏目誠教授（大阪樟蔭女子大）産業保健が自殺予防に果たす役割は大きいことが強調され、自身の診療経験から自殺を回避できた 2 例の考察に基づき、周囲からのサポートの重要性とともに早期発見のための手がかりを示した。勤労者の自殺にみられる特徴を考えた対応が必要で、産業保健スタッフがこれまで行ってきた自殺予防の活動をさらに効果あるものとする上で、重要な課題が示された。

つづいて石川浩二医師（三菱重工(株)）からは各職場でのストレスの状況を調査するために使用される調査票、職業性ストレス簡易調査票、メンタルヘルス改善意識調査（MIRROR）を使用した事例を示し、前者で明らかになった問題点の改善措置によって、事後の調査で改善が見られていることで、調査票に基づいた社内のメンタルヘルス改善が可能であることが示された。一方、調査にあたって必要な準備と事後措置も明らかにされた。さらに昨年改訂された心の健康問題により休業した労働者の職場復帰支援の手引きにも触れ、主な改訂のポイントを示した。

参加者数はここ数回の減少傾向に歯止めがかり、152 名（会員 90 名、非会員 60 名）だった。



尾島俊之氏



真田樹義氏



加藤一夫氏



夏目 誠氏



石川浩二氏

研究会・部会開催報告

第 77 回職場ストレス研究会

日 時：2010 年 2 月 24 日 (水)
14:00 ~ 16:00
会 場：明倫ホール (名古屋市中区)
内 容：「職場で役立つカウンセリング技法」
講 師：前田隆司 (日本産業カウンセラー協会中部支
部 養成講座部長)
参加者数：33 名

第 23 回振動障害研究会

日 時：2010 年 2 月 20 日 (土)
13:30 ~ 16:30
会 場：名古屋大学医学部保健学科 本館 1 階
THP セミナー室
演 題：1. 振動対策の国際動向と新しい振動障害予
防対策指針について
榊原久孝 (名古屋大学医学部保健学科)
2. 新指針に対する工具メーカーの動きと課題
畝山常人 (前㈱マキタ技術研究部)
3. 造園作業員の冬期の自覚症状
井奈波良一 (岐阜大学医学部)
参加者数：28 名

第 6 回東海地方会産業医部会懇話会

日 時：平成 22 年 6 月 19 日 (土)
14:00 ~ 17:00
場 所：中部大学名古屋キャンパス 6F
内 容：「職場改善演習—CD を活用して」
産衛学会編集「職場改善セミナー教材」を使用
事例提示：
1. S 工業事例 (製鉄所整備作業場)
提示者：斉藤政彦 (大同特殊鋼産業医)
2. ST 社 (高圧配管加工場)
提示者：金一成 (トヨタ自動車産業意)
3. グループでグループ討議後、作業や作業環境
に潜む危険を洗い出し、改善提案を提示
参加者数：13 名

日本産業衛生学会 役員選挙について

去る 7 月 1 日、日本産業衛生学会役員選挙が公示されました (中央選挙管理委員長：吉田勉理事)。会員の方々はこの時点での所属地方会で選挙権を得ることになります。また 7 月 31 日時点で前年度から継続する会員で、本部年会費を完納していることが選挙権取得の条件になります。

8 ~ 10 月の期間に代議員選挙・東海地方会長選挙の東海地方会の定数が確定、続いて立候補・推薦受付を行います。候補者名簿確定後、投票のための選挙封筒郵送、投票、開票が行われます。

さらに 11 ~ 12 月 (新) 代議員による本部理事候補者選挙が行われます。

これまでの慣例で本部学会代議員を当地方会理事に充てています。なお、代議員選挙は立候補制になっています。会員の皆さんの積極的な立候補と立候補者の推薦をお願いいたします。詳しくは東海地方会ホームページ (<http://tosh-net.umin.jp/>) をご覧ください。

選挙管理委員

愛知：上島通浩、中元健吾、西谷直子
静岡：巽あさみ、武藤繁貴、新島邦行
岐阜：黒川淳一
三重：高崎正子

学会賞・奨励賞・功労賞 候補者推薦のお願い

先日の理事会で、学会賞、学会奨励賞、功労賞などの候補者を東海地方会員の中から積極的に推薦すべきできないかとの意見が出されました。東海地方会で活動されている方々の中でこれらの賞にふさわしいと思われる方がおられましたら、ぜひで学会への推薦をお願いいたします。推薦締切は 8 月末日です。いずれも正会員 2 名の推薦状が必要です。また、応募書類には候補者の氏名、生年月日、所属、所属先所在地、略歴、業績の概要 (2000 字) などがが必要です。各賞によって少しずつ応募書類が異なりますので、詳しくは日本産業衛生学会のサイトから各賞精度選考細則を参照してください。

会員の声

産業看護学実習の苦労と喜び

後藤 由紀 (四日市看護医療大学)



四日市看護医療大学は、日本でも数少ない産業看護学の教育を特色の一つとする大学です。2007年4月に開学し、今年ようやく完成年度を迎え、本学1期生百数十名は、昨年度秋より1年かけて総合的な看護実践力を身につけるために医療機関、企業、保健所・保健センター、老人介護施設などの臨地実習で学びを深めています。

産業看護学に関する実習は、本学では、地域看護学実習Ⅱとして位置付けられています。企業で働く看護職の活動を通じて、働く人々の健康の保持増進、QOLの向上を目指して、充実した職業生活を送るための健康支援の在り方について学ぶとともに、産業保健専門職からなるチームの一員として産業看護職の果たすべき役割を理解することを目的に、全学生が、四日市近郊の約10ヶ所の事業場のご協力を頂いて、企業での看護活動を体験させていただいています。近隣大学あるいは現場の看護職の方々から、学生全員が企業実習を行っていることへの驚きの声や、関西方面の大学から産業看護学実習について具体的な実習内容、展開方法についての問い合わせも頂いています。

近年、保健師教育は、臨地実習を巡り、さまざまな議論が起こっています。代表的なものは、学生のモチベーションの低下—すなわち看護学生全員が保健師を希望しているわけではないこと—、そして全学生の实習場所の確保の困難などでしょう。これらの問題が浮き彫りになり、現制度を見直す時期に来ているという声も少なくありません。確かに、実習事業場を開拓することは私ども教員が頭を悩ませたことの一つでした。実習を可能にするためには、延数十ヶ所の事業場にご協力を頂かなければなりません。開学1年目から2年目にかけて、日本産業衛生学会の名簿や口コミだ

けを頼りに、何十ヶ所の企業に電話したか思い出せない程です。また担当者にお会いできても産業保健体制が整っていない事や本来業務でないなどの理由でお断り頂いた事も当然ありました。しかし、現在実習にご協力を頂いている事業場の看護職・産業医をはじめ、安全衛生担当者、そして企業トップのご理解により、学生全員が産業看護学実習を経験することが可能となりました。企業平均で2クール、多い所では4クールの実習を受けて頂き、まさに現場の方々の深いご理解とご協力によって実習が成り立っていると言わざるを得ません。

当大学の産業看護実習は始まったばかりですが、実習を終えた学生の「企業実習を体験して『看護』の幅広さ奥深さを実感した」、「組織へのアプローチ、予防、ヘルスプロモーションへの学びが深まった」、「卒後は産業看護職として働きたい」という声を聴くと、産業看護実習の意義を再認識します。これからも、教育活動だけでなく、研究活動など企業との連携を更に深くし、産業保健の発展に寄与していきたいと考えます。



経済不況が労働者の健康にもたらすもの

内野 文吾 (ヤマハ発動機)



いわゆるリーマン・ショックを発端とした世界的不況に見舞われ、もうすぐ 2 年になります。当時の大変なことが起こるかも知れない、という漠然とした不安も今は現実となり、北米と

欧州での急激な需要の冷え込み、一気に進んだ円高などにより、売上げの多くを輸出に依存する某輸送機器製造会社では、2009 年の決算にて 2000 億円以上と巨額の赤字を計上しました。経済は好景気と不況を繰り返すというのは当然のことですが、私が産業医の職に就いてからは幸いにも業績は伸び続けていただけに、変化の速い時代であることを改めて実感しています。

それでは、このような不況は労働者の健康にどう関わってくるのでしょうか。日頃の実務から気づいた事を、会社の資源であるヒト・モノ・カネに分けてご紹介したいと思います。

まずわかりやすいモノからですが、商品構成の見直しと開発モデル数削減、生産効率化のための製造拠点の統廃合などが挙げられます。前者は開発部門のモチベーションに影響しかねませんし、後者は一時的な業務負荷の増大や、場合によっては勤務地が大幅に遠方になるなどの影響が予想されます。

次にカネについてですが、徹底した経費節減が求められる、残業の制限や管理職の賃金一律カット、出張の原則禁止、通勤バスの一部廃止、電気の省エネ対策など、細かいものを挙げればきりがありません。最近では食堂の照明も一部消され、薄暗い中で昼食をとっています。すぐ出来ることではありますが、何となく寂しい気持ちになるのは私だけではないようです。

最後に、全てはヒトにつながるわけですが、期間社員・派遣社員の削減による人員の減少、系列外会社への数百人規模での出向、残った正規社員の負荷増大など、大きな変化を生じています。健診でも、睡眠が十分であると答える人が増加した一方、問診では将来の不安を訴える社員が多く、賃金の減少とライフスタイ

ルの変化が、じわじわと影を落としています。加えて早期退職の募集が進められていることも、今後の大きな不安要因です。

以上、生活と健康は両輪の関係であることを改めて認識すると共に、多くの社員と接する立場にある産業医として、組織の健康を維持していくためには何ができるか模索しつつ、人事や経営層にその声を伝えていきたいと考える毎日です。もし同じような経験をもつ先生がいらっしゃれば、ぜひご指導いただきたく、よろしく願い申し上げます。



平成22年度日本産業衛生学会 東海地方会総会決議

平成21年度事業報告

1. 総会を2009年6月26日(金)に四日市市で開催した。

2. 理事会を4回(2009年6月6日、9月5日、12月12日、2010年2月20日)開催した。

3. 各部による活動を以下のように実施した。

1) 学術・国際部

(1) 平成21年度日本産業衛生学会東海地方会学会を名古屋市で以下のように開催した。

日時：2009年11月14日(土)
9:30～17:00

場所：名古屋市立大学医学研究科・医学部研究棟
11階

学会長：上島通浩(名古屋市立大学大学院医学研究科 環境保健学分野)

企画：

一般演題 21題

特別講演「今雇用の現場で起きていることー法学者から見た現在の雇用の現状と課題ー」
和田肇(名古屋大学大学院法学研究科)

シンポジウム「産業保健課題としての肥満の成因・病態と予防」

「肥満者の就労における課題と対応」

金一成(トヨタ自動車(株))

「職域集団から学ぶ肥満の成因と健康影響」

豊嶋英明(名古屋大学名誉教授)

「非アルコール性脂肪性肝炎の分子メカニズムと予防」

那須民江(名古屋大学院医環境労働衛生学)

指定発言「肥満の作業関連性」

西谷直子(東レ(株)愛知)

参加者：172名(会員117名(含:名誉会員1名)、非会員44名、学生11名)

(2) 研究会活動を以下のように実施した。

①第23回振動障害研究会

日時：2010年2月20日(土)

13:30～16:30

会場：名古屋大学医学部保健学科 本館1階
THPセミナー室

演題：1. 振動対策の国際動向と新しい振動障害予防対策指針について

榊原久孝(名古屋大学)

2. 新指針に対する工具メーカーの動きと課題

畝山常人(前株マキタ技術研究部)

3. 造園作業員の冬期の自覚症状

井奈波良一(岐阜大学)

参加者数：28名

②職場ストレス研究会

・第75回

日時：2009年7月15日(水)

14:00～16:00

会場：明倫ホール(名古屋市中区)

テーマ：「肥満と職場ストレス」

講師：西谷直子(東レ 愛知工場健康管理室)

参加者数：34名

・第76回

日時：2009年11月10日(火)

14:00～16:00

会場：明倫ホール(名古屋市中区)

テーマ：「地域・職域につなげる自殺予防」

講師：木村仁(愛知医科大学精神科学講座)

参加者数：63名

・第77回

日時：2010年2月24日(水)

14:00～16:00

会場：明倫ホール(名古屋市中区)

内容：「職場で役立つカウンセリング技法」

講師：前田隆司(日本産業カウンセラー協会中部支部 養成講座部長)

参加者数：33名

③学術連携研究会

・第2回 産業衛生 学術研究討論会

日時：2009年10月3日(土)

9:30～12:30

場所：名古屋市立大学医学研究科・医学部研究棟11階 講義室A

内 容：第 1 部：事例検討
 テーマ：それぞれの立場で学術研究を実践する、
 問題点と解決方法の模索
 事例提示 飯田忠行（藤田保衛大公衆衛生）
 田原裕之（トヨタ自動車田原工場）
 高崎正子（東芝四日市工場）
 第 2 部：産業衛生学のエビデンスを創る、そのた
 めに何をすべきか？
 斉藤政彦（大同特殊鋼）
 参加者数：24 名

第 2 回学術連携研究会教育講演

日 時：2009 年 11 月 14 日（土）
 17：00～18：00
 会 場：名古屋市立大学医学研究科・医学部研究
 棟 11 階 講義室 A
 内 容：「産業保健におけるフィールド研究の役
 割ー現場と大学・研究機関の連携に向け
 てー」
 柴田英治（愛知医科大学）
 参加者数：43 名

2) 事業部

(1) 平成 21 年度日本産業衛生学会東海地方会総会並
 びに研修会を四日市市で以下のように開催した。

日 時：2009 年 6 月 26 日（金）
 10：00～17：00
 会 場：四日市農協会館（四日市市）
 企画運営委員会代表：
 和田文明（三重産業保健推進センター所長）

プログラム：

特別講演 1 「事業活動と感染症対策」～ワクチン
 予防可能疾患を中心として～
 庵原俊昭（国立病院機構 三重病院
 院長）

東海地方会総会

特別講演 2 「職域における感染症対策」～結核症
 について～
 坂井 隆（国立病院機構 三重中央
 医療センター院長）

特別講演 3 「メンタルヘルス ～健康と笑い～」
 橋元慶男（岐阜聖徳学園大学教授）

参加者数：78 名

(2) 第 24 回産業保健スタッフのための研修会を企画
 準備した。（開催は平成 22 年度）
 日 時：2010 年 3 月 6 日（土）

10：00～16：50
 場 所：名城大学薬学部 ライフサイエンスホー
 ル
 講 演 「産業保健に役立つ疫学入門」
 尾島俊之
 （浜松医科大学健康社会医学講座教授）
 講 演 「特定保健指導の効果的な実践 ～運動・
 生活活動支援のポイント」
 真田樹義（立命館大学）
 指定発言 加藤一夫（愛知学院大学）
 講 演 「職場における自殺への対応ー予防から
 対応まで」
 夏目 誠（大阪樟蔭女子大学大学院）
 講 演 「職場ストレス調査と改善対策～その実
 際と留意点～」
 石川浩二（三菱重工業(株)大江西・飛島健
 康管理科）

4. 各部会による活動を以下のように実施した。

1) 産業医部会

①第 5 回東海産業医部会懇話会（看護部会との共同
 開催）

日 時：2009 年 6 月 13 日（土）
 14：00～16：30
 場 所：中部大学名古屋キャンパス 5 階 510
 講義室
 メインテーマ：「メンタル不調者を出さない組織・
 企業づくり」

講演 1 「メンタルヘルス一次予防活動の展開
 ～組織心理による職場アプローチ」
 高崎正子（東芝四日市工場健康支援セン
 ター保健師）

講演 2 「当社における人財・職場活性化への取り
 組み」
 神宮純緒（日立製作所労政人事部安全活
 性化グループ・産業医療推進センター部
 長代理）

参加者数：58 名

②第 24 回産業保健スタッフのための研修会の企画
 準備に協力した。

2) 産業看護部会

①6 回シリーズ研修会「産業看護における統計解析
 法」

日 時：2009 年 6 月 20 日、7 月 27 日、8 月
 31 日、9 月 28 日、10 月 30 日、11

月 30 日

場 所：愛知産業保健推進センター

講 師：杉本日出子（株）ジェイテクト安全衛生環境部

参加者数：30 名

②産業看護部会研修会（共催：衛生管理業務研究会）

日 時：2010 年 1 月 29 日（金）

場 所：法研中部ビル 8 階会議室

テーマ：「産業看護職における職場改善
～人間工学的視点から～」

講 師：酒井一博（労働科学研究所所長）

参加者数：46 名（内、産業看護師 5 名）

③産業看護職継続教育システム短縮 N コース（主催：愛知産業保健推進センター）に協力した。

④第 24 回産業保健スタッフのための研修会の企画準備に協力した。

3) 産業衛生技術部会

①東海産業衛生技術部会第 1 回特別講演会

日 時：2009 年 12 月 19 日（土）

13：00～16：00

場 所：中部大学名古屋キャンパス 6 階 610 教室

テーマ：「これからの環境管理のあり方・考え方」

講演 1：「ベンチマーク法による臨界濃度評価と
利用法」

村田勝敬（秋田大学・医・環境保健学）

講演 2：「管理濃度とリスク管理」 中明賢二
（麻布大学）

参加者数：27 名

②第 24 回産業保健スタッフのための研修会の企画準備に協力した。

4) 産業歯科部会

①第 4 回産業歯科部会研修会

日 時：2009 年 11 月 7 日（土） 18：30～

場 所：名古屋ガーデンパレス

テーマ：「これからの産業保健」

講 師：柴田英治（愛知医科大学）

参加者数：9 名

②第 24 回産業保健スタッフのための研修会の企画準備

に協力した。

5. 地方会ニュース編集委員会

地方会ニュースの発行（76～77 号）を行った。

6. 東海地方会ホームページの運営

事務局の管理で UMIN に設置したホームページの運営を行い、地方会関連行事、理事会の案内などを行った。（<http://tosh-net.umin.jp/>）

平成 22 年度事業計画

1. 総会を 2010 年 6 月 25 日（金）に名古屋市で開催する。

2. 理事会を 4 回開催する。

3. 部長会を適宜開催する。

4. 各部により以下の活動を行う。

1) 学術・国際部

(1) 平成 22 年度日本産業衛生学会東海地方会学会

日 時：平成 22 年 11 月 13 日（土）

会 場：浜松医科大学医学部 講義実習棟 特別講義室他

学会長：巽あさみ（浜松医科大学医学部看護学科
地域看護学講座 教授）

(2) 研究会

(a) 職場ストレス研究会

(b) 振動障害研究会

(c) グローバル化と安全衛生研究会

(d) 学術連携研究会

2) 事業部

(1) 平成 22 年度日本産業衛生学会東海地方会総会ならびに研修会

日 時：2010 年 6 月 25 日（金）

9：30～17：45

会 場：東建ホール・丸の内

企画運営委員会代表：

山田琢之（なごや労働衛生コンサルタント事務所）

- (2) 第 25 回産業保健スタッフのための研修会
2011 年 3 月ごろに開催予定

を運営し、地方会関連行事、理事会などを案内する。
(<http://tosh-net.umin.jp/>)

3) 総務部

- (1) 東海地方会事務局の業務補助

- (2) 役員選挙管理業務

8. 第 85 回日本産業衛生学会（平成 24 年度）の準備

企画運営委員会（企画運営委員長：小林章雄）を組織し、会場：名古屋国際会議場、会期：2012 年 5 月 30 日（水）～6 月 2 日（土）の予定で準備する。

5. 地方会各部会活動

1) 産業医部会

- ①第 6 回東海産業医部会懇話会

日 時：2010 年 6 月 19 日（土）
14：00～17：00

場 所：中部大学名古屋キャンパス 6 階 610
講義室

- ②第 25 回産業保健スタッフのための研修会の企画運営に協力する。

2) 産業看護部会

- ①産業看護職継続教育システム短縮 N コース講座
（主催：愛知産業保健推進センター）に協力する。

- ②第 25 回産業保健スタッフのための研修会の企画運営に協力する。

- ③看護部会研修会を開催する。

3) 産業衛生技術部会

- ①産業衛生技術部会としての独自企画を開催する。

- ②第 25 回産業保健スタッフのための研修会の企画運営に協力する。

4) 産業歯科部会

- ①第 5 回東海産業歯科部会研修会を開催する。

- ②第 25 回産業保健スタッフのための研修会の企画運営に協力する。

6. 地方会ニュース編集委員会

地方会ニュースを年度内に 3 号まで（78 号、79 号、80 号）発行する。

7. 東海地方会ホームページの運営

事務局の管理で UMIN に設置したホームページ

第 85 回日本産業衛生学会 東海地方会の担当決定

6 月 19 日の地方会理事会で小林章雄地方会会長から、第 85 回日本産業衛生学会開催を東海地方会が担当することになった旨が報告されました。学会開催は各地方会の持ち回りを原則としつつ、諸事情を考慮して決められます。地方会事務局ゆより、有力な会場候補となる名古屋国際会議場を 2012 年 5 月 29 日（火）～6 月 2 日（土）の期間、予約したことが報告されました。

また、小林章雄地方会会長が企画運営委員長となることが承認されました。さらに次回以降の理事会で、企画運営委員会を組織することが決まりました。

これからの行事予定

第38回有機溶剤中毒研究会、第43回生物学的モニタリング・バイオマーカー研究会 合同研究会

日程：2010年10月9日(土)～10日(日)
 会場：サンプラザ シーズンズ(名古屋市名東区藤里町1601番地)(藤が丘から市バス幹藤丘1号系統、藤丘12号系統で2つめのバス停「藤里町」下車)
 世話人：柴田英治(愛知医科大学医学部衛生学講座)
 特別講演 ヒト皮膚ガスの発見とバイオマーカーへの応用 津田孝雄(㈱ピコデバイス代表取締役、名工大前教授)
 シンポジウム 有機溶剤中毒・生物学的モニタリング・バイオマーカー研究の未来
 -産業現場と研究の接点を求めて-

第20回日本産業衛生学会 産業医・産業看護全国協議会

日程：2010年10月13日(水)午後～16日(土)
 会場：かでる2・7道民活動センタービル(札幌市)
 企画運営委員長：清田典宏(北海道労働保健管理協会)
 メインテーマ：「働きがいのある職場環境と産業保健の役割」
 事前参加登録：9月10日(金)まで
 ホームページ：<http://ncopn20.mice-co.jp/>

平成22年度地方会学会

日時：平成22年11月13日(土)
 9:30～17:00
 場所：浜松医科大学医学部講義実習棟特別講義室、201講義室
 学会長：巽あさみ(浜松医科大学医学部看護学科 地域看護学講座教授)
 午前の部 (10:00～12:00) 一般演題
 午後の部 (13:20～17:00) 特別講演、シンポジウム
 ①特別講演 13:20～14:20
 職場のメンタルヘルス 最新の効果的な復職支援のあり方

講師 廣 尚典(産業医大)
 座長 大久保浩司(矢崎総業)

②シンポジウム 14:20～16:50

テーマ

職場のメンタルヘルスケア～事業所内産業保健スタッフ「力」、もっと結集できないか!～
 嘱託医として産業看護職に期待すること

渡邊美寿津(愛知医大)

大規模事業所におけるメンタルヘルス活動

松下裕子(JR東海静岡健診センター保健師)

一人職場におけるメンタルヘルス活動

奥柿智子(ブリヂストン・エラストック保健師)

労政企画・健康安全の観点から看護職に期待すること

星宮宏光(ヤマハ㈱人事部健康安全推進室長)

指定発言者

住吉健一(旭化成富士支社産業医)

井上朋子(静岡県農業団体健保組合保健師)

座長

倉田千弘(ヤマハ㈱健康管理センター産業医)

巽あさみ(浜松医大地域看護学教授)

第5回産業歯科部会研修会

日時：2010年11月28日(日)
 10:00～12:00
 場所：愛知学院大学歯学部楠元校舎・第2会議室
 (名古屋市千種区楠元町1-100)
 内容：「産業歯科保健」なんでも討論
 日頃お考えのこと、疑問に思うことなど何でも結構です。参加者による活発な討論を期待しています。

連絡先：電話・FAX 0564-74-0712

メールアドレス hara-koji@live.jp

第52回産業精神衛生研究会

1. 会長：矢崎総業株式会社 統括産業医 大久保浩司
2. テーマ：「明るく元気な職場をめざして」
3. 期日：平成23年2月20日(日)
 9:30～17:00
4. 会場：ウインクあいち(愛知県産業労働センター)
 名古屋市中村区名駅4丁目4-38

(名古屋駅より徒歩 2 分)

5. プログラム

9:30 開会挨拶

大久保浩司(矢崎総業㈱ 統括産業医)
産業精神衛生研究会代表世話人挨拶
廣 尚典(産業医大 生態科学研究所
精神保健学 教授)

9:40 一般演題 発表 6 題(発表 7 分、質疑 3 分)

10:50 教育研修「MIRROR を用いた職場改善」
真船浩介(産業医大・生態科学研究所
精神保健学 助教)

13:30 ~ 14:30

特別講演

「産業精神衛生研究会の活動のあゆみ」
永田領史(産業医科大学 名誉教授)

14:45 ~ 16:55

シンポジウム「働く若者の適応ー若者の
心を理解し支援するためにー」

- ①心理的発達と精神障害ー精神科医の立場からー
河村雄一(ファミリーメンタルクリニック)
- ②若年労働者のメンタル不調の特徴と対
応ー産業医の立場からー
森田哲也(株式会社リコー 総括産業医)
- ③最近の自殺の傾向ーパワーハラスメント・
若者をキーワードにー弁護士の立場からー
高木道久(栄パーク総合法律事務所)
- ④若年者を支援するリワークの活用
ーリワークプログラム EAP の立場からー
春日未歩子(ジャパン EAP システムズ
EAP 相談室)
- ⑤労働意欲を高めるための人材育成支援
ー企業人事の立場からー
手嶋晶隆(日東工業株式会社 人事部)

16:55 閉会挨拶 大久保浩司

17:00 閉会

6. 参加費: 3,000 円(参加申込が多数の場合、事
前申込を優先させていただきます。)

振込先: 三菱東京 UFJ 銀行 浜松支店 普通預金
口座番号 0072415
口座名 第 52 回産業精神衛生研究会
会長 大久保浩司

* 振込み後、所属、氏名を明記し、事務局まで参加
申込のメールまたは FAX を送信してください。

7. お問い合わせ先

〒 480-1195 愛知郡長久手町大字岩作字雁又 21
愛知医科大学 産業保健科学センター(渡邊)

TEL 0561-62-3311 (内線 3376・3377)

FAX 0561-61-3479

E-mail syokuba@aichi-med-u.ac.jp

8. 演題募集

発表を希望される方は、11 月末日までに演題、
発表者をメールまたは FAX にて事務局宛ご登録
ください。抄録の締め切りは 12 月末日です。

本部会員の異動 (2010.2.1 ~ 5.31)

(1) 新入・再入会員

愛知①尾本大輔(中部ろうさい病院)

②早川絵里(旭精機工業)

③中野佐愛子(名古屋郵政健康管理センター)

④山口真由(名古屋郵政健康管理センター)

⑤張靈逸(名大)

⑥奥蘭洋子(豊生ブレーキ)

⑦浅野しほ(シーテック)

⑧吉岡美紀(トヨタプロダクションエンジニアリ
ング)

⑨杉浦尚子(アイシン精機)

⑩近藤礼子(三洋化成工業)

⑪服部尚実(大同ライフサービス)

⑫三宅ひとみ(大同特殊鋼)

⑬小倉広康(パナソニック電工)

⑭千住隆男(楠メンタルホスピタル)

⑮佐藤美保(南医療生協かなめ病院)

⑯原田倫子(ファイザー)

⑰高井美弥(トヨタ自動車)

⑱荒木光子(あまの創健)

⑲森田芳江(ATグループ健康保険組合)

静岡①満尾佳久(プリチストーン)

②円谷由子(静岡県立大)

③平野貴子(ヤマハ健康管理センター)

④早坂信哉(浜松医大)

⑤足立安正(ジヤトコ)

⑥實沢理恵(ジヤトコ)

⑦柳田宙(スズキ)

⑧飛鏞修二(フローラルクリニック)

⑨西陽子(関東自動車工業)

⑩平野庸行(富士フィルム)

⑪阿部幸洋(聖隷沼津健康診断センター)

三重①小堀陽子(パナソニック電工)

②石田猛大(東芝)

③楠井嘉行(楠井法律事務所)

(2) 転入会員

愛知①白石知子 (中部大学) (関東より)

静岡①山野光彦 (東海旅客鉄道) (九州より)

(3) 退会会員

愛知①亀井哲也 (藤田保健衛生大短大)

②杉本陽子 (デンソー)

③馬場多喜子

④藤城敦子 (テンプスタッフ・ピープル)

⑤成瀬春美 (名市大)

⑥櫻木幸枝 (中部大)

⑦宇佐美郁治 (旭労災病院)

⑧永縄典子 (新日本製鐵)

⑨井澤美紀子 (名古屋通信病院)

⑩朝長健太 (J T)

⑪山田真理子 (N T T 東海健康管理センタ)

静岡①間間元 (生協きたはま診療所)

②小川泰子

③岡田いそ子 (河合楽器)

④長谷陽子 (東海旅客鉄道)

三重①大倉美佳 (三重大)

②内藤久美 (三菱化学)

③斉藤久子 (三菱化学)

岐阜①小木曾政則 (小木曾歯科)

(4) 転出会員

愛知①水野光仁 (協立総合病院) (近畿へ)

②佐々木恵 (名市大) (四国へ)

③柳場由絵 (名大) (関東へ)

静岡①山本愛 (聖隷健康診断センター) (九州へ)

②小倉明 (静岡赤十字病院) (関東へ)

③櫻澤博文 (ジヤトコ) (関東へ)

④松澤聖奈 (聖隷健康診断センター) (北海道へ)

⑤伊藤直人 (順天堂大静岡病院) (九州へ)

三重①北村文彦 (三重大) (関東へ)

(5) 地方会内転入出

愛知→静岡①加藤仁美 (中部電力)

1. 報告事項

1) 本部報告事項

平成 22 年度第 1 回本部理事会及び臨時理事会報告

2) 地方会事務局報告

3) 第 24 回産業保健スタッフのための研修会開催報告

4) 平成 22 年度総会ならびに研修会準備状況

5) 平成 22 年度地方会学会準備状況

6) 愛知県医師会産業保健部会報告

7) 地方会部会報告

8) 地方会ニュース

9) 関連学会・研究会開催報告

10) 今後の学会・研究会等

11) その他 東海地方会顧問の交代、学術連携研究会アンケート他

2. 協議事項

1) 第 85 回日本産業衛生学会 (平成 24 年度) の東海地方会担当について

2) 2010 年役員選挙に係る東海地方会選挙管理委員の委嘱について

3) 平成 22 年度地方会事業計画、予算について

4) 平成 22 年度総会の議事次第と総会資料

5) 会長推薦理事の追加

6) その他

編集後記

今号もお届けするのが遅くなってしまいましたことをお詫びいたします。ニュース発行の仕事は事務局の仕事の片手間にできることではないことが次第にわかってきました。今後は若い世代にの力を借りながら、さらに新しい視点を加えた内容にしたいと考えています。インターネットの普及で紙媒体の地方会ニュースの役割に疑問が出されたことありますが、会員へのアプローチは多面的であることが重要です。これまで年 3 回届く地方会ニュースが地方会活動の広報として果たしてきた役割はまことに大きなものがありました。どんなにインターネットに囲まれ、忙しくしていてもメールボックスの郵便物必ずチェックするものです。東海地方会のホームページには常に最新の情報にアクセスできるようにしていますが、時代を担う人たちの感覚にも十分アピールできるニュースの在り方を考えていく必要があります。(柴田)

地方会理事会

平成 22 年度第 1 回東海地方会理事会

日 時：2010 年 6 月 19 日 (土)

場 所：中部大学名古屋キャンパス 610 講義室

出 席：理事 42 名、監事 1 名、オブザーバー 1 名、

委任状：24 名